

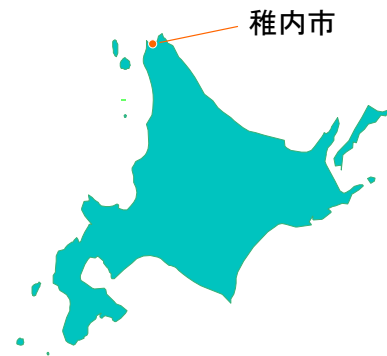


にぎわい

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信

編集者より

今回の「にぎわい通信」第130号では、昨年稚内市で開催されました平成20年度総会の報告をするとともに、今年で間宮海峡発見200年を迎えたことを記念して、稚内市で行われるイベントをご紹介します。



会員だより

稚内市

-日本海にぎわい・交流海道ネットワーク 平成20年度総会-

「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」の平成20年度総会が平成20年9月24日に北海道稚内市の稚内全日空ホテルで開催されました。

総会議事においては、平成19年度の活動及び決算の報告がなされ、また、平成20年度の事業計画並びに予算案が提案され、全会一致で承認・決定されました。

事業計画の中で、ホームページをリニューアルし、機能充実を図り、環境情報として海岸清掃等の各地の取り組み状況を掲載していくことなどが提案されました。

また、来年度の総会開催地について、石川県輪島市より立候補があり、同市で開催されることが承認・決定されました。

総会后、講演会が行われ、本ネットワーク代表で開催地市長である横田耕一稚内市長の開会挨拶、須野原豊 国土交通省港湾局長（代理 宮本卓次郎 振興課長）の来賓挨拶があり、講演会は株式会社道新サービスセンターのグレーブ・ジュラフスキー氏より「ロシアと日本海沿岸の経済交流について」と題して行われ、サハリンプロジェクトなどの経済状況やロシア人観光客の北海道への人気の高まりなどについて講演されました。



総会



講演会

また、川合紀章 北海道開発局港湾計画課長の司会により「日本海を活かした地域振興や交流について」をテーマとした座談会が行われましたが、当日は離島フェリーの欠航により、利礼3町の町長が欠席となったため、メンバーを変更して、横田耕一 稚内市長、宮本卓次郎 国土交通省港湾局振興課長、小山彰 北陸地方整備局次長、山口清一 北海道開発局港湾空港部長の4氏により行われました。

座談会後に交流会、翌日は現地見学会が行われ、宗谷丘陵・宗谷岬・副港市場等を見学して全ての日程を終了しました。

稚内市

-間宮海峡発見200周年記念イベント-

稚内市は、目前の宗谷海峡を挟み、東はオホーツク海、西は日本海に面し、海を中心として歴史を刻んでおり、海との深い係わりや海から受けた恩恵の歴史といえます。また、昨年の平成20年に市制施行60年、稚内港開港60年を迎えたことから、この年を中心に平成19年から平成23年までの5年間で、海を中心としたメモリアル事業を展開しております。

3年目となる平成21年は、稚内港を出港し樺太（サハリン）に向かった間宮林蔵が文化6年（1809）5月8日に北緯53度15分、サハリンのナニオーの地に立ち、サハリンが海峡によって大陸と隔てられた島であることを確認してから200年になります。また、稚内は蝦夷地と呼ばれていた江戸時代から、海峡・国境の街として特異な歴史をもっており、それは、ロシアの南下に備えて北方警備の要衝地であり、北を探る出発の地でもあるといえます。そこで、平成21年を稚内・宗谷再発見の年と位置づけ、間宮林蔵に関する様々なイベントを開催してまいります。

6月20日から10月18日まで北方記念館において「間宮林蔵展」を開催し、間宮林蔵に関するパネル等を展示します。また、7月12日には北防波堤ドームを会場に「林蔵まつり」を開催し、サンタン船の展示、林蔵関連物品の販売を行います。その他「間宮海峡を目指した冒険家フォーラム」や「間宮海峡発見200年記念歴史シンポジウム」等の記念イベントを予定しておりますので、ぜひお越しください。



= 編集・問い合わせ先 =

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク 事務局

国土交通省 北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課 調査係

Tel : 011-709-2311 (内線5617)

Fax : 011-709-2147

E-Mail : ozaki-k22ad@hkd.mlit.go.jp